

第2回森町総合計画審議会 議事概要

日 時：平成17年9月27日（火）午後2時～4時

場 所：町民生活センター集会室

出席委員：鈴木(奉)会長、友田(和)副会長、太田委員、榊原委員、打田委員、大石委員、大竹委員、大場委員、奥宮委員、小倉委員、小野委員、片岡委員、鈴木(よ)委員、友田(明)委員、松井委員、村松委員、山根委員

事務局：鈴木課長、杉山課長補佐、長野係長、福島主事
静岡総研（石井主任研究員、村松研究員）

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

(1) 総合計画に関する基礎資料（未定稿）について

<資料に基づき静岡総合研究機構より説明>

<質疑>

委 員：<基礎資料P5の一般世帯の家族類型について>

「H12のその他」が12.7%と高い割合であるが、その他の世帯とはどのような世帯か。P37の社会移動の状況について、なぜ参考資料なのか。

総 研：「その他の世帯」とは、夫婦のみ世帯、夫婦と子ども世帯、単独世帯、3世代世帯以外のものを指す。例えば、兄弟で住んでいるとか、知人と暮らしているなどの世帯である。

社会移動の状況については、元となるデータが、P5のデータと同じものではなく、人口推計に使う前提でのデータを使用・処理しているので、現時点では参考資料扱いとしている。

委 員：人口に関するデータは、H12の国勢調査の数字が多く使われているようであるが、出来る限り、直近、最新の数字・データを使ってはどうか。

総 研： 可能な限り新しいデータに更新している。人口に関するデータについては、住基人口でなく、国勢調査の数字を使うのが一般的であるため、H12の国勢調査のデータを使用している。今年、国勢調査の年であるので、速報値が出た時点で、対応していきたい。

委 員： < P16の観光に関するデータについて >

宿泊客数は、単純に森町に宿泊した人数か、それとも他の市町村に宿泊した人数も含まれているのか。

総 研： データとしては、森町の宿泊施設から直接、吸い上げた数字をもとにしているのです。森町に宿泊したことは確か。しかしながら、他の市町村に宿泊しているかどうかまでは不明。

(2) 町民アンケート調査結果について (速報・未定稿版)

< 資料に基づき静岡総合研究機構説明 >

< 質疑 >

委 員： 標本数2,028人とはどのように抽出しているか。また、有効回答率45.1%という数字は、平均的なのかどうか、高いのか低いのか。

事務局： 町内約2,000名ということで無作為に抽出。無作為抽出ということもあり、高齢などの理由のため、回答できない方も含めて抽出されることがあるので、少し多めに対象者を抽出している。

総 研： 45.1%という数字については、社会一般的なアンケート調査では、2割から3割程度の回答率となる。自治体が行う調査だと、だいたい4割から5割程度の回答率である。

そういう意味では、今回の45.1%という数値は、平均的な数字であり、サンプル数914も分析には十分な数である。参考までに、1市2町合併検討時のアンケート調査の時には、44.7%であった。

(3) 森町協働まちづくり委員会の協議状況について

< 資料に基づき事務局説明 >

< 森町協働まちづくり委員会の経過報告 >

委員みんなで、まさに熱心に協議しているところ。9月に入り、2回のワークショップを行い、非常にたくさんの意見が出てきている。

今後は、分野別に分かれて、協議を進めていく予定。専門的な知識を持ち合わせているわけではないが、勉強しながら進めているところ。

時間は限られているが、「まちづくり構想に関する提言」の作成に向けて、委員みんな力を合わせて頑張っていきたい。

< 質 疑 >

委 員： 財政状況など今の森町の現状をしっかりと認識したうえで、基本構想、基本計画をつくっていくのが大変重要だと考える。

協働まちづくり委員会の中でも、予算に関わるものも多く出てくると思うので、現状などを認識した上で議論することが大切だと思う。

例えば、アンケート結果の中でも、医療の充実というのが出ているが、森町病院の現状を認識して、考えていくことが大切だと思う。また、財政力指数の高い類似自治体のデータ等を分析して、参考としてみてはどうか。今の町の現状は、大変厳しいと考えている。そういう状況を充分認識しなければならない。

事務局： 財政状況については、9月議会において、一般質問に町長が答弁しており、そういった厳しい状況であるとはか言えない。

また、小泉内閣において国・地方の行財政改革がまさに進行中であり、今後の5,10年先が見通しにくい状況である。

総 研： 財政力指数の高い類似団体のデータについては、あくまでも過去のデータであり、今後、大きく状況が変わっていく中で、参考となるかどうかということについては、不明な点もあると思うが、可能な限り調査をしていきたい。

委 員： 現状を良く認識することが大変重要だと思う。例えば、学校の面で考えると、今後、子供の数がどう変わっていくのかなど考えて今後の施策を考える必要がある。

役場内各課でも、今後細かい分野で検討をしていくと思うが、どのような課題があるのかを良く把握してもらいたい。

会 長： 資料については、可能な限り出して議論を進めていきたい。

委 員： 何回か協働まちづくり委員会をやっているが、協働まちづくり委員会に、審議会委員の皆様も是非傍聴に来ていただきたい。

今後、細かい話になっていくと思うので、忙しいとは思いますが、是非、傍聴に来ていただければありがたい。

委 員： 4回、5回の協働まちづくり委員会の協議における、まちづくりの理念や柱というのが、大切なベースになっていくと思うが、今後、どのような形で詰めていくのか。

事務局： 5回目においては、基礎資料、アンケート結果を参考にさせていただき、議論しているところ。その中でいろんな将来像・理念が出てきている。

今後、分野別に分かれて協議していくと、今まで議論してきた「まちづくりの理念」などについても、「もう少し工夫した方がよい」とか、「違う言葉を使ってはどうか」などと、再度見直すような形になってくる。また、お互いの意見を聞いている中で、違う視点も自然と入ってくることにより、自然とまとまりが出てきて、お互いにブラッシュアップするような形になってくる。そういった段階で、事務局サイドで、ある程度整理しながら、整理していくような段どりを考えている。

委員： 協働まちづくり委員会の進捗状況を審議会に出していただき、審議会の意見を取り入れながら進めていただきたいと思います。

委員： 遠州の小京都はイヤだという意見があるが...

委員： これは、出た意見をそのまま載せてある。この意見の意図としては、遠州の小京都というが、小京都と宣伝する割には、そのような場所がないのではないか。それなのに、遠州の小京都というのは、おかしいのではないか。遠州の小京都として発信するのであれば、もうちょっとそれらしいものがあったらいいじゃないか。という意見だと思うが。

委員： 同感である。私も遠州の小京都を使うのは恥ずかしい気がする。いずれにしても、それにあった町をつくっていくのか、それにとらわれない町にしていくのか、という視点が大切。

委員： 分野別に分かれて議論していく中で、観光の分野もあり、そういった中でまた、いろんな意見が出てくると思う。

委員： 志賀重昂が森の町に来て詠った歌の中に、遠州の小京都が出てきている。その当時は、森の町の中にもそういった趣があったということ。

委員： 町職員内部にも、意見や提言を投げかけるようになっていたと思うが、どういった状況なのか。

事務局： 基礎資料、アンケート結果が出てきたので、それを踏まえた上で、職員の方々にも意見を出していただくと考えている。

基本理念等を協働まちづくり委員会などで検討してもらっているが、町職員の役割としては、町の状況を踏まえた上で理念に基づいて、どのような取組を実施し、どうやって実現していくのかといったことに力を入れていってはどうかと考えている。

委員： 協働まちづくり委員会の中で、遠州の小京都という話が出ていたが、京都の持っている文化なのか、景観なのか、衣食なのか、それぞれ考え方が違うと思うが。

委員： 小京都というものが、何をとらえているのかということかなと思う。たまたま、ここにはそういう意見（小京都と名乗るにはふさわしくないのでは）がでていますが、実際にはもっと違ういろいろな見方もあるのかもしれないと思う。

今後、分野別に話をしていく上で、専門的な意見が必要になったら、そういったアドバイスも必要になってくるのかなと思うので、状況に応じて事務局と相談していきたい。協働まちづくり委員会の委員は、素人の集団であり、細かい具体的なことが分からないところもある。できるだけ知識を持った方にアドバイスをいただく必要もあるのかなとも思っている。もののとらえ方は、1つでなく、2つも3つもあると思うので、議論していきたいと思う。

委員： 太田川ダム関連で、栗の島の埋め立て地を茶園にするという話になっているが、誰が耕作するのかという話になっているのが現状である。あれだけの広い土地をもっと公共的に有効に利用できないか。

ダム関連の他の埋立地についても、どのように計画的に利用していくのかといった課題がある。ダムの完成も見えてきているので、具体的な計画が出てきても良い段階なのかなと思う。

少子化問題に関連して、結婚したい男性はたくさんいるが、独身のままということが多い。そういった面での対策をしていくのも大事ではないか。

町内会長の研修で、京都・嵯峨野の街を3時間歩いた。そこに住んでいる人たちが、観光客に対して親切に接しており、ゴミもあまり落ちていない。そういったもてなしの心が大切。

森川橋も、森町の玄関であるから、早く改修していただきたい。宿泊施設が少ないことも考えると、さざんか荘の有効利用も一つの視点となる。

アンケート結果を見ると、もっともな結果とも思える。具体的にどうするか、一つずつやっていかななくてはいけない。

委員： 太田川ダム周辺整備の委員会に参加しているが、いろいろと議論しているところである。アクティ森から太田川ダムまでの周辺についての整備などの議論をしていくような状況もあったが、現在は、ダム湖周辺の整備を中心とした話になっている。

会 長： この様にいろいろな意見があり、大変ですが、整理しながら、進めていきたいと思う。

(4) その他について

< 事務局説明 >

次回の日程 (今後、調整予定)、地域ごとの懇談会について

4 閉会